

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和3年5月14日 ～ 令和4年3月10日
調査研究事項	<p>《委託研究:夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態を踏まえた教育課程の充実について ○学齢生徒との交流を図る教育課程の充実について ○ICTを活用した教育支援について <p>II. 広報・相談体制の充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広く夜間中学校について周知を図る交流活動・広報活動の実施について <p>IV. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の困りに応じた教職員の配置について ○教職員の指導力向上を図る研修の実施や参加について ○相談体制の充実を図る研修の実施について <p>V. 環境整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○困りを抱えた生徒に対する相談活動の充実を図るための環境整備について ○生徒の心の安らぎに関わる環境整備について <p>VI. その他夜間中学校における教育活動充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ意欲の向上と、社会認識を広げるための体験活動の充実について ○多文化交流と日本の伝統文化にふれるための体験活動の充実について
調査研究のねらい	<p>I. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態を踏まえた教育課程の充実について <p>洛友中学校では、戦中・戦後の混乱期に貧困や差別などで義務教育を受けることができなかった未就学生徒に加え、中国からの引揚者、朝鮮半島や中国からの新渡日生徒などが学ぶようになり多様化が進んだ。さらに、近年は東南アジアをはじめとした就労などによる新渡日生徒、形式卒業者も入学するようになり、多様化がさらに進んでいる。</p> <p>このように、外国籍生徒の増加や年齢の幅の広がりにより、在学生徒の日本語・学習の定着程度などが大きく異なる状況にある。また、近年は上級学校進学希望者が増加するなど、これまで以上に幅広い生徒に対応した教育課程の充実が求められている。</p> <p>洛友中学校では、これまでから日本語指導の教科横断学習を実践</p>

しているが、本委託事業の活用により、日本語の習得が必要な生徒に対応する指導法の研究を一層進めるとともに、高校進学に向けた学習が必要な生徒に対応した教材の整備等、個に応じた教育を進め、さらに、将来展望を図るためのキャリア教育の充実も進めていく。

○学齢生徒との交流を図る教育課程の充実について

洛友中学校は不登校を経験した学齢生徒が学ぶ昼間部を併設しており、共に学ぶことによる教育的効果が期待できる。そのため、「共に」につながる効果的な行事等の活動を企画・実践する。

○ICTを活用した教育支援について

学習の定着に幅のある生徒の実態を踏まえ、誰もがわかりやすい授業を実践するために、ICT環境や教材の充実を図る。さらには、登校が困難な生徒を対象に、あるいは長期休業中の補習授業などにICTを活用した学習を実施する。

II. 広報・相談体制の充実に関すること

○広く夜間中学校について周知を図る交流活動・広報活動の実施について

洛友中学校では、夜間中学での学びを必要とする方に対する周知を図るために、ホームページや市民しんぶんなどを通じた学校紹介やポスターの掲示、チラシの配布などの広報活動を行っている。また、令和2年度入学生からは、いわゆる「教育機会確保法」の趣旨を踏まえ、入学資格を「市内在住者」だけでなく「市内在勤者」へも拡大したため、京都府教育委員会とも連携しながら京都府内全域での広報活動を実施している。

このような中、夜間中学の更なる認知の機会を充実するため、令和3年度は、広報活動に加え、地域や本市教職員を対象とした学校公開、他中学生との交流学习等を実施する。特に、学校関係者の理解は、自校の形式卒業者への情報提供や人権教育に結びつくと考えられるため、広報の効果は大きいと考えられる。

IV. 教職員の配置・研修に関すること

○生徒の困りに応じた教職員の配置について

近年、外国籍生徒の入学が増えており、これまでの朝鮮半島・中国などからの入学者のほかに、モロッコやネパールから生徒が入学し、今春はフィリピン国籍の生徒が入学する予定であり、使用する母語が年々多言語化している。このように日本語に困りを抱えた生徒の国籍も幅広くなり、その実態に対応するために、日本語通訳、日本語ボランティア、学生ボランティアの効果的な配置と活用についての研究を進める。

	<p>○教職員の資質・能力の向上を図る研修の実施や参加について 外国籍生徒、形式卒業者など、多様化する生徒の希望に応えるため、専門的・先進的な知識を習得する校内研修の開催、研修や研究発表会への参加、ICTの活用を中心とする新しい指導方法の習得、他中学校への視察などを通じて教職員の資質・能力の向上を図る。</p> <p>○相談体制の充実を図る研修の実施について 入学する生徒の多様化が進む中、形式卒業者の割合が増加しており、今後もその傾向は進んでいくと考えられる。形式卒業者の学び直しに応え、社会への橋渡しをするためには、多くの生徒が抱える特性理解が必要であり、校内教職員を対象に特別支援教育に関する研修を実施する。</p> <p>V. 環境整備に関すること</p> <p>○困りを抱えた生徒に対する相談活動の充実を図るための環境整備について 困りを持つ生徒の悩みなどに応えるため、個別の相談や指導を行う相談室などの環境を整える。</p> <p>○生徒の心の安らぎに関わる環境整備について 幅広く多様な生徒が互いにコミュニケーションを持てるよう開設した交流スペースの充実を図る。</p> <p>VI. その他夜間中学校における教育活動充実に関すること</p> <p>○学ぶ意欲の向上と、社会性を広げるための体験活動の充実について 教科学習だけでなく、体験活動の充実を図ることにより、学ぶ喜びと意欲、社会への関心を高める。</p> <p>○多文化交流と日本の伝統文化にふれるための体験活動の充実について 多様な生徒が在学する中で、互いの文化や風習を理解し、交流と協働を図るため、多文化交流に関わる体験活動の企画や行事に参加する。また、日本の伝統文化を体験することにより、日本への理解を深め、社会性を身につける。</p>
調査研究の成果	<p>I. 教育課程に関すること</p> <p>○生徒の実態を踏まえた教育課程の充実について 洛友中学校の学級数は3クラスであるが、生徒の実態を踏まえて、授業は4クラスに分け、生徒の学力に合わせた学級編成を行っている。それに加え、本委託事業を活用し、日本語の習得が必要な生徒に対応する指導法の研究や、高校進学に向けた学習が必</p>

要な生徒に対応した教材の整備等，個に応じた教育を進めた。その結果，今年度末は4名の形式卒業生徒が定時制高校に進学し，来日して2年目のネパールからの新渡日生徒1名が日本語の理解も進み，上級学校への進学を予定するなど，生徒のニーズに応じた進路を実現することができた。

○学齢生徒との交流を図る教育課程の充実について

洛友中学校は不登校特例校である昼間部を併設しており，本委託事業を活用し，昼間部生徒との交流により生まれる教育効果を目的とした教育課程を編成し，総合的な学習の時間にあたる「交流学习」の時間に，共同作業や活動の機会を充実させることができた。コロナ禍により，全員で交流することが困難な時期にはグループ単位での活動を行った。年齢や国籍を超えた交流は学びあい，協力しあうことで，思いやりや学ぶ意欲という互いの心の成長へとつながっている。夜間部生徒へのアンケート結果からも，「昼間部の生徒と一緒に勉強したり，活動することは楽しい」の項目は「3.6（4.0満点）」となっており，交流することの成果がうかがえた。

○ICTを活用した教育支援について

生徒の学習への理解が一層深まるように，プロジェクター，大型テレビを学習指導において活用している。生徒の学力程度を踏まえた自作教材に視聴覚教材を加えることにより，生徒の理解が深まっていると考えられ，アンケートの「授業はわかりやすい」は3.7，「先生は教材や教え方を工夫している」は3.8と，わかりやすい授業をめざした成果が表れている。

今年度，GIGA端末が生徒全員に配備されたため，文字入力から，インターネットによる情報収集，Teamsなどを利用した双方向の学習など，生徒それぞれの習得程度に合わせて活用した。特に今年度はコロナ禍により，自宅での学習を希望する生徒もいたため，GIGA端末を持ち帰ってオンラインで学習するなど，ICTを活用した教育支援を行った。

II. 広報・相談体制の充実に関すること

○広く夜間中学校について周知を図る広報活動の実施について
夜間中学の存在を広く周知するため，以下の取組を実施した。

- ・学校だよりやポスター等の製作・配布（掲示）。
- ・ホームページ等による学校の取組紹介。
- ・新入生募集の際の入学案内等の府内全域への配架。
- ・生徒が作成した募集ポスターの校門前への掲示。

- ・各学校での人権教育にも生きるよう、市内小中学校教員を対象にした学校公開の実施。
- ・自治体・教育機関等の視察、新聞社の取材を通じた夜間中学の取組紹介と発信。

○交流活動による夜間中学の認知促進について

地域行事への参加、市内中学校の総合的な学習の時間などでの学校訪問の受け入れ、市内中学校の人権学習などにおける講師派遣など、地域、他中学校との交流などにより、夜間中学の認知を図った。例年、文化祭、球技大会等の学校行事を公開し「昼間部と夜間部の良さを生かし、世代や国籍を超えてふれあい学び合う学校」姿を伝える取組を行っているが、令和3年度はコロナ禍により十分に行うことができなかった。コロナ禍における有効な交流・広報活動のあり方について検討する必要がある。

IV. 教職員の配置・研修に関すること

○生徒の困りに応じた教職員の配置について

生徒の多様化に対応するため少人数編成を実施し、それに合わせ、より丁寧な指導ができるようT、T等の教員配置を行っている。これまでの一斉授業を中心とした学習では、理解することが困難で、個別の指導が必要となる生徒の割合が増加している傾向に対応するため、日本語ボランティア、学生ボランティア等と連携し、個々の困りに対応できるような教材を作成するなどの工夫を行った。

○教職員の指導力向上を図る研修の実施や参加について

学校公開、校外での研修の参加などにより、教員の資質・能力の向上を図る予定であったが、コロナ禍により他中学校への視察や交流が十分に行えない現状を踏まえ、今年度は昼夜間部相互の授業参観による意見交流の機会を設けるなど、校内での研修を重視し、教職員の指導力向上を図ることができた。また、わかりやすい授業、生徒が活用することをめざした授業づくりについてなど、ICT研修の充実を図った。

次年度以降、現状を踏まえ、校内での研修をさらに充実させるとともに、オンラインによる研修参加、他夜間中学校との交流などの教職員の研修や交流の機会を増やしていく。

○相談体制の充実を図る研修の実施について

学校に配置されているSC、SSWとの連携、校内研修等の機会を多く設け、生徒理解や相談のあり方などに生かした。

また、生徒理解にかかる校内研修を適宜設けることで教職員の共通理解を図り、相談活動に生かした。生徒アンケートの「悩んでいることや困っていることを先生に相談している」という項目

は「3.3(4.0満点)」で、生徒と教職員との関係が築けていると考えられる。

V. 環境整備に関すること

○困りを抱えた生徒に対する相談活動の充実を図るための環境整備について

生徒が困りをいつでも気軽に相談することができるよう、多目的に活用することができるスペース(校内では「ライブラリー」という教室名にしている)を整備し、学校生活での困りや学習、将来展望、家庭生活などについて話し合う、教育相談の機会を定期的に設けた。相談内容を校内で共有するとともに、必要に応じSCやSSWとの連携、福祉等の専門機関との連携を図ることで生徒の困りに寄り添い、支援につなげることができた。

○生徒の心の安らぎに関わる環境整備について

上記の「ライブラリー」を普段は生徒が自習や休憩、交流等、多目的に利用できる場所とし、自由に利用できる書物や問題集などを揃えることで、始業前に登校して自習する姿や休憩時間に相談する姿が見られるなど、生徒の心の安らぐ場所として整備することができた。

また、校内に生徒作品や日常の取組、学校行事などを紹介・案内する掲示物を掲示することで、学校生活を送りやすい環境づくりに努めた。

さらに、高齢生徒、健康面に不安のある生徒も在学しているため、校内では段差や歩きづらさがないようバリアフリー等の配慮をしているが、日常の学活、交流の取組、配布物などで、健康で快適に日常生活が送れるよう、学習やアドバイスなどを行った。

また、不注意などでの怪我が起こらないよう、掲示物などで注意喚起を行った。

VI. その他夜間中学校における教育活動充実に関すること

○学ぶ意欲の向上と、社会性を広げるための体験活動の充実について

今年度もコロナ禍により、計画をしていた校外での活動、講師を招いての学習などが、中止や規模の縮小などにより、予定どおりに行えない状況であった。そのため、生徒会活動を活発にし、屋間部と協力して、生徒主体で学校行事等の運営を行うような、校内での活動を工夫した。また、国語(日本語)、社会、理科、などの教科学習や総合的な学習の時間を通じて、社会生活や自然などについての理解を広げたり、発表の機会による他者との交流を通して学びや社会への認識を深める取組を行い、このような現状を補った。

○多文化交流と日本の伝統文化にふれるための体験活動の充実について

例年参加している「民族の文化にふれるつどい」が昨年度に引き続きコロナ禍により中止となり、韓国・朝鮮文化に触れる機会となる「東九条マダン」も学校紹介パネルのみの参加になるなど、外部交流を通じて多文化を学ぶ機会が大幅に制限されたため、音楽や美術、社会科などの教科学習を通して、あるいは茶道体験などの機会を通じて多文化交流や日本の伝統文化理解につなげた。